



### (3) 活動例

<p>かつどうれい 活動例 1</p>	<p>&lt;インタビューごっこ&gt; がっこうせいかつ にほんご かんたん じこしょうかい 学校生活：日本語で簡単な自己紹介ができる。</p>	<p>ひとり 5にん 1人～5人 ぶんていど 10分程度</p>
<p>&lt;準備&gt; じゆんび まいく ようい えん こうにゆう マイクを用意（100円shopにて購入） （マイクがないときはペンなどをマイクに見立ててもよいでしょう。）</p>		
<p>&lt;活動例&gt; かつどうれい ① 指導者がインタビュアーとなり、子どもに質問します。 しどうしゃ いんたびゆあー こども しつもん （例）・名前はなんですか。 れい なまえ ・なんさいですか。 ・好きな食べ物は何ですか。 す た もの なに ② 子どもがインタビュアーになり、友だちや指導者に質問します。 こども いんたびゆあー とも しどうしゃ しつもん</p> <p>※ダンボール箱でテレビ画面を作り、テレビに出ている人のように見立ててするのも、 だんぼーるばこ てれびがめん つく てれび で ひと みた 子どものモチベーションが上がって、楽しく活動ができます。 こどものもちべーしょん あがって たの かつどう</p>		
<p>&lt;ポイント&gt; ぽいんと やくわり こうご か かつどう やくわりこうたい しどうしゃ き う みてき こた 役割を交互に変えて活動（役割交代）することで、指導者が聞くことを受け身的に答 えるだけではなく、場面を自分がコントロールするような自発的な活動になります。 ぼめん じぶん こんとるーる じはつてき かつどう</p>		

<p>かつどうれい 活動例 2</p>	<p>すわ かた &lt;座り方&gt; がっこうせいかつ ただ い す すわ かた 学校生活：正しい椅子の座り方</p>	<p>ひとり にん 1人～5人 ぶんでいど 10分程度</p>
<p>じゅんび &lt;準備&gt;</p> <p>『もちかた、つかいかたトレーニングブック』 GAKKEN ￥900 の写眞や絵を、子どもが見て分かるように かくだい 拡大しておきます。</p> 		
<p>かつどうれい &lt;活動例&gt;</p> <p>① 本、写眞や絵を見せて、いすに座る姿勢について子どもと話します。 このとき、指導者は悪い見本を見せて、子どもに悪いところを気づかせたりします。</p> <p>② 座り方の具体的な声掛けの仕方を決めておいて、毎回同じ声掛けで注意を促します。 す。 たとえば、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・足は、少し開きます。</li> <li>・グーの手を作って、おへそと机の間を、グーの手一つ分けます。</li> <li>・背中を棒のようにまっすぐ伸ばします。</li> </ul>		
<p>ぽいんと &lt;ポイント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人向け託児所の中には、個人用の机がない所もあり、子どもたちの中には長時間いすに座ることなく過ごしている場合もあるので、配慮しましょう。</li> <li>・一緒に学校遊びをして、先生役や良い子ども悪い子どもなどの役割をし、自分たちで決まりを作ったりして活動すると、楽しみながら注意点を自覚することもできます。</li> </ul>		

<p>かつどうれい 活動例3</p>	<p>&lt;ひげじいさん&gt; がっこうせいかつ ただ しせい すわ 学校生活：正しい姿勢で座る</p>	<p>ひとり なんにん 1人～何人でも ふんていど 5分程度</p>
<p>じゅんび &lt;準備&gt; ペーパーサート (ひげじいさん、こぶじいさん、てんぐ、めがね、うさぎ)</p>		
<p>かつどうれい &lt;活動例&gt;</p> <p>① 「ひげじいさん」や「こぶじいさん」は難しいことばなので、理解を促すために、ペーパーサートを用意します。</p> <p>② ペーパーサートを見せながら、身振りを付けて歌を歌います。</p> <p>♪ トントントン ひげじいさん トントントン こぶじいさん トントントン てんぐさん トントントン めがねさん トントントン 手は上に トントントン 手はおひざ</p> <p>③ 最後に、きちんと手をひざの上に置き、正しい座り方にします。</p>		
<p>ほいんと &lt;ポイント&gt;</p> <p>「手はおひざ」を理解するために行います。「手はおひざ」を子どもが理解したら、その後は姿勢が崩れているときに「手はおひざ」と言って、正しい姿勢に直すきっかけにできます。</p>		

<p>活動例 4</p>	<p>＜鉛筆の持ち方・運筆＞          学校生活・読み書き：          鉛筆の持ち方、運筆、名前の書き</p>	<p>ひとり～5人          10分程度</p>
--------------	---	----------------------------------

＜準備＞

- ・『もちかた、つかいかたトレーニングブック』 GAKKEN  
 の写真や絵を、子どもが見て分かるように拡大しておきます。
- ・鉛筆、サインペン

＜活動例＞

- ① 本、写真や絵を見せて、正しい鉛筆の持ち方について子どもと話します。
- ② 実物を使って正確な持ち方の練習をします。
- ③ 鉛筆で書くことの経験が少ない子どもの場合、鉛筆で書く練習をする前に、サインペンを使って練習をするほうが子どもの負担が少ないでしょう。
- ④ なぞり書き（直線やうずまき）や迷路などの運筆練習をたくさんします。
- ⑤ 名前の練習用に、個々人の縦書きと横書きの名前の見本を用意しておくとういでしょう。

＜ポイント＞

- ・子ども用の知育ドリルが活用できます。
- ・外国人の子どもの名前をカタカナ、ひらがな、漢字のどの文字で表記するかは、それぞれの小学校で異なります（小学校1年生の場合、クラスの他のお友だちが見て分かることが大切なので、全員がひらがなで書くという学校もあります。）。入学予定の小学校に、名前の表記の確認をされるとよいでしょう。
- ・運筆練習のプリントをラミネート加工して用意しておくサインペンなどを使って何度も練習ができます。



<p>かつどうれい 活動例5</p>	<p>〈なんだろうなボックス〉          がっこうせいかつ えんぴつ          学校生活：鉛筆、けしごむ、はんかちなど身の          まわ なまえ おぼ          回りのものの名前を覚える。          ことばによるヒントで具体物が分かる。</p>	<p>ひとり 1人～ ぶんでいど 10分程度</p>
------------------------	---	--

〈準備〉

- ・子どもが興味を持つように  
だんぼーる はこいろがみ は  
段ボールの箱に色紙を貼り、  
きれいにします。
- ・実物や絵カードの一部を見ることができ  
るように幾つか穴を開けておきます。



〈活動例〉

STEP1 (触ったり、見たりして名前を当てる)

- ① 「なんだろうなボックス」の中に、けしごむ・のりなど名前を覚えさせたい  
ものを入れます。上から手を入れ、触って何か当てるゲームをします。
- ② 箱の正面・横に小さい穴をあけ、そこから物を少しずつ見せ、部分から何か  
当てるゲームをします。

STEP2 (ことばによるヒントで名前を当てる)

- ③ 「中に何が入っているか当てましょう」と言い、幾つかのヒントを言って名前  
を当てさせます。  
例えば、りんごの模型を入れ、「たべるものです。赤いです。丸いです。」な  
ど。
- ④ 日本語が比較的よく分かる子どもには、子どもを出題者にして、ヒントを言  
わせます(役割交代)。指導者は、わざと答えを間違えてヒントを誘発させたり、  
「どんな形ですか」「何に使いますか」など日本語のレベルを上げた質問をし  
たりします。

〈ポイント〉

- ・複数の子どもで指導するときは、子どもたちの鉛筆やけしごむなどを入れ、一つ  
ずつ取り出して「これはだれの?」と持ち主を問うゲームなど、様々な応用が  
できます。
- ・子どもが興味を持って楽しく活動できるように、カードや具体物の見せ方を工夫  
しましょう。例えば、箱や袋を使って、絵カードを一部分だけ見せたり、パツ  
と瞬間的に見せたりするのも子どもの興味を引く見せ方です。

かつどうれい 活動例6	<sup>うた おぼ からだ ぶい なまえ</sup> <b>&lt;歌で覚える体の部位の名前&gt;</b> <sup>がっこうせいかつ うた うた からだ うご</sup> 学校生活：歌を歌って体を動かす <sup>からだ ぶい めいしょう</sup> 体の部位の名称	ひとり 1人～10人 ふんていど 5分程度
----------------	---	--------------------------------

<sup>じゅんび</sup>  
<準備>

あれば、CD、CDプレーヤー

かつどうれい  
<活動例>

<sup>からだ ぶい なまえ うた おぼ</sup>  
身体の部位の名前を歌で覚える。

① 「あたま かた ひざ ポン」(ロンドン橋と同じメロディで)

♪あたま かた ひざ <sup>ほん</sup> ポン ひざ <sup>ほん</sup> ポン ひざ <sup>ほん</sup> ポン  
あたま かた ひざ <sup>ほん</sup> ポン め みみ はな くち

② 「アブラハムの子」

♪アブラハムは <sup>にん</sup> 7人の子 <sup>ひとり</sup> 一人はのっぽで あとはちび  
みんな なかよく <sup>くら</sup> くらしている さあ おどりましょう  
<sup>みぎて</sup> 右手 (右手) <sup>ひだりて</sup> 左手 (左手) <sup>みぎあし</sup> 右足 (右足) <sup>みぎあし</sup> 左足 (左足)  
<sup>あたま</sup> 頭 (頭) <sup>あたま</sup> おしり (おしり) おしまい

③ 「むすんでひらいて」

♪むすんで ひらいて <sup>て</sup> 手をうって むすんで  
またひらいて <sup>て</sup> 手をうって <sup>て</sup> その手を OOに  
(「その手<sup>て</sup>を<sup>う</sup>上<sup>え</sup>に」のフリーズを「頭<sup>あたま</sup>に」等、<sup>など</sup> 体<sup>からだ</sup>の部位<sup>ぶい</sup>に替<sup>か</sup>えて歌<sup>うた</sup>い、<sup>こども</sup>子どもがその部位<sup>ぶい</sup>を指<sup>さ</sup>すようにする。)

④ 「できるかな？」(CD/エリック=カール <sup>えほん</sup> 絵本うた <sup>こんセル</sup> コンセル)

<sup>りずむ</sup> リズム体操があり、歌に合わせて<sup>たいそう</sup> 体操をする。<sup>あたま</sup> 頭、<sup>かた</sup> 肩、<sup>くび</sup> 首、<sup>うで</sup> 腕、<sup>て</sup> 手、<sup>むね</sup> 胸、<sup>せなか</sup> 背中、  
<sup>あし</sup> おしり、<sup>あし</sup> ひざ、<sup>あし</sup> 足、<sup>あし</sup> つま先などの体<sup>からだ</sup>の部位<sup>ぶい</sup>が<sup>かくにん</sup> 確認できる。

<sup>ほいんと</sup>  
<ポイント>

- ・身体<sup>からだ</sup>の部位<sup>ぶい</sup>の名前<sup>なまえ</sup>を強<sup>きょう</sup>調<sup>ちよう</sup>して歌<sup>うた</sup>い、歌<sup>うた</sup>に合わせて動<sup>どう</sup>作<sup>さ</sup>をする。
- ・歌<sup>うた</sup>のあとに、「ここはなに？」と<sup>かくにん</sup> 確認<sup>かくにん</sup>もする。

<p>かつどうれい 活動例 7</p>	<p>&lt;はな はな はな&gt; がっこうせいかつ からだ ぶ い めいしよう おほ 学校生活：体の部位の名称を覚える</p>	<p>ひとり にん 1人～何人でも ふんていど 5分程度</p>
<p>じゅんび &lt;準備&gt; なし</p>		
<p>かつどうれい &lt;活動例&gt;</p> <p>① 指導者は「鼻、鼻、鼻」と言って、鼻を指差し、子どもにまねをさせ、次に「頭」などの身体の部位の名前を言います。</p> <p>② このとき、指導者は頭を触らず、子どもの反応を見ます。</p> <p>③ 子どもが正しく触れていれば、「ここが頭ですね」とことばで確認をします。</p> <p>④ 役割を交代して、反復練習をしましょう。</p> <p>⑤ 慣れてきたら、指導者はわざと間違えて違う箇所を触って、子どもに間違いを指摘させるのも楽しいです。</p>		
<p>ぽいんと &lt;ポイント&gt;</p> <p>からだ ぶ いいがい いち おうようかのう れい うえ うえ うえ した 身体の部位以外にも、位置にも応用可能です（例：上、上、上…下！など）。</p>		

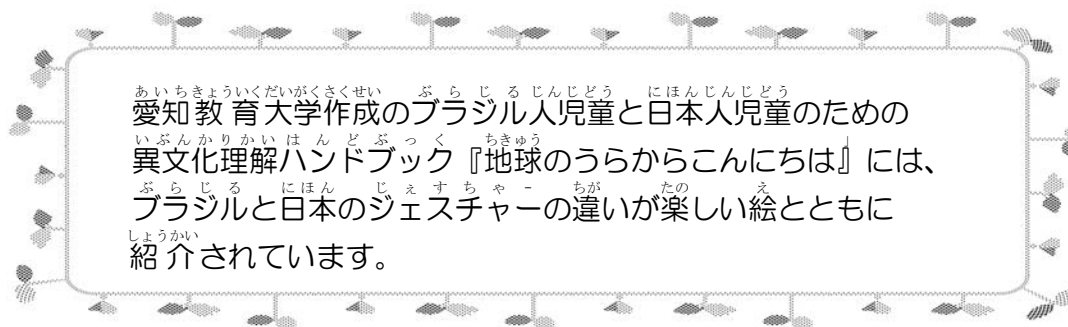


<p>かつどうれい 活動例8</p>	<p>&lt;ジェスチャー&gt; がっこうせいかつ たいちよう つた 学校生活：体調を伝える からだ ぶい めいしよう 体の部位の名称</p>	<p>ひとり にん 1人～5人 ぶんでいど 10分程度</p>
------------------------	--	---

<準備>  
なし  
→活動例5, 6で覚えた体の部位の言い方と合わせて。

<活動例>  
① 指導者が、「頭が痛い」「お腹が痛い」「痒い」などの様子をジェスチャーで示し、子どもに症状を当てさせます。  
② 役割を変え、子どもにジェスチャーをさせ、どんな症状なのかをみんなで当てます。

<ポイント>  
・言葉が通じないときに動作で痛みや不快箇所を伝える方法があることを学びます。  
・国によっては、ジェスチャーで示すことが日本とは異なることもあるので、注意します。





かつどうれい 活動例 9	<ひらがな <b>ぱずる</b> > 読み書き：語頭音を意識して遊ぶ。	ひとり 1人～5人 ぶんていど 10分程度
-----------------	--	--------------------------------

<準備>

- ・模造紙1枚に縦5文字、横5文字のひらがな表を書きます。
- ・くもんの「ひらがなカード」を用意します。



<活動例>

- ① 始めにう段の文字と同じ文字から始まることばカードを、同じ文字の表の上に乗せます。
- ② トランプの7並べの要領で、う段の文字に隣接することばカードを順に出していきます。

<ポイント>

大きなひらがな表を使って、身体を動かして語彙学習ができるので、離席の多い子どもも楽しく活動できます。

かつどうれい 活動例 10	<ひらがな <b>じくそーぱずる</b> > ひらがな文字	ひとり 1人～何人でも ぶんていど 10分程度
------------------	----------------------------------	----------------------------------

<準備>

- ・縦15cm、横15cm程度の大きさのひらがなカードを斜線で切ったカードを用意します。
- 付録の「ひらがなカード」を活用。



<活動例>

- ① パズルにしたカードを正しい文字にします。

<ポイント>

一度に多くの文字を提示すると混乱するので1行ずつやらせます。形の認識の練習にもなります。

<p>かつどうれい 活動例 1 1</p>	<p>&lt;ひらがな磁石&gt; ひらがな文字</p>	<p>ひとり 1人～何人でも ぶんていど 10分程度</p>
<p>&lt;準備&gt; ・縦15cm、横15cm程度の大きさのひらがなカードを磁石で 黒板に貼れるように用意します。 →付録の「ひらがなカード」を活用。</p>		
<p>&lt;活動例&gt; ① 覚えた文字を黒板にあいうえお順に貼ります。 ② 絵カードの語彙の文字を、ひらがなカードから選んで貼ります。</p>		
<p>&lt;ポイント&gt; 文字学習は単調になりやすいので、「黒板に文字を貼る」という活動は変化 があって、楽しく活動することができます。</p>		

活動例 1 2

<ひらがな語彙と絵カード>

日本語指導：ひらがな語彙の読み

ひとり～5人  
ぶんでいど  
10分程度

<準備>

ひらがなの行単位でできることばと、それに対応する絵のカード（例えば「さ行」までなら、さ行までのひらがなでできることばを使います。）



<活動例>

- ・絵カードを見せて、ひらがな一字ずつのカードをとらせ、語彙を作ります。
- ・絵カードをちりばめておき、字カードを1枚見せて、対応する絵カードを取りま
- す。
- ・字カードをちりばめておき、絵カードを1枚見せて、対応する字カードを取りま
- す。
- ・すべて裏返しておき、神経衰弱をします。

<ポイント>

- ・ひらがなの単音読みのあと、文字をつなげて読むことに慣れるための教材です。
- ・既習の行までのひらがなののみを使うので、着実に定着させていくことができます。
- ・シンプルですが、指導者の使いかたによって幅の広がる教材です。

活動例 1 3

<ひらがなスタンプ>

学校生活：物の名前・はさみの使い方

読み書き：ひらがなの読み

ひとり～何人でも  
15分程度

<準備>

ひらがなスタンプを用意 五十音表 クレヨン、はさみ、のり



<活動例>

- ① 下の写真のような、色々な野菜の絵を用意します。
- ② 好きな野菜を選び、はさみで切り取ります。
- ③ 色の名前を確認しながら塗ります。
- ④ 別紙に張ります。このとき、のりの使い方なども説明します。
- ⑤ 野菜の名前を確認します。
- ⑥ 50音表で指さしをして、ひらがなを確認します。
- ⑦ スタンプを押して完成させます。
- ⑧ 「わたしは、きゅうりが好きです」とか「にんじんが嫌いです」と好きなものや嫌いなものを発表させます。



- ① 下の写真のように、自分の顔の絵を描いて色塗りをします。
- ② 口や鼻、耳など、体の部位の名前を確認します。
- ③ 50音表で指さしをして、ひらがなを確認します。
- ④ スタンプを押して完成です。



<ポイント>

- ・ひらがなの形は覚えても、書くのが難しい場合も多いので、こうしたスタンプを利用して縦に文字を並べることや、左→右に並べ、意味のある単語を作ることができます。
- ・子どものレベルによっては、文字枠を用意したほうがよいでしょう。
- ・野菜や顔以外にも様々な絵を描いて応用できます。

かつどうれい  
活動例 1 4

<しりとりあそび>

よみかき：語頭音、語尾音を意識させる。  
語彙を増やす。

ひとり～5人  
ぶんていど  
10分程度

<準備>

- ・しりとりカード1  
こぐま会 幼児教育実践研究所
- ・くもんのことばカードを使う場合は、しりとりができるようにカードを選びましょう。
- ・しりとりができるように、自分で絵カードを作ってもよいでしょう。



<活動例>

STEP 1 (ことばを一音一音に区切ることが分かる活動)

- ① 始めに、二音で構成されていることばのカードを用意して、名前の確認をします。そのとき、「あ・り、あり」のように1つのことばを音に分けて再構成するような形で言います。次に、三音で構成されていることばのカードも同様に練習します。
- ② さらに絵カードを見せて、語頭音のみをヒントで言って、続きの音を当てさせる活動をします。
- ③ 「あをつくもの」「いをつくもの」など、語頭音を意識化する遊びもしましょう。

STEP 2 (しりとりかみのルールがわかり、語頭音や語尾音を意識して活動する)








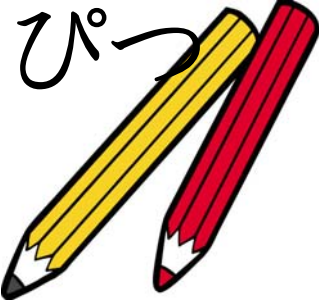
- ④ しりとりカードを10枚配り、子どもと指導者で順に必ず名前を言いながら、しりとりカードを並べて遊びます。
- ⑤ 1枚だけカードを選び、一人でその絵からスタートしてしりとりをさせます。その時も、必ず名前を声に出して言うようにします。

<ポイント>

- ・日本語が比較的よく分かる子どもの場合は、さらに色々なバリエーションでの活動も可能です。例えば、
  - ・しりとりカードを10枚配り、最初のカードと最後のカードを指示し、残りのカードがしりとりになるように並べさせます。
  - ・10枚のカードの間を抜かして並べてから、その間に入るカードをさがさせます。  
(例) ありー□ー□ーかめー□ーねこー□ー□ーたぬきー□
- ・分からないときは、カードの後ろのひらがなを見てもいいことにすると、ひらがなを一生懸命読もうとし、ひらがなの学習にも繋がります。



しりとりカード

とけい 	いす 
すいか 	かさ 
さんかく 	くつ 
つくえ 	えんぴつ 

基本的な語彙を使った「しりとりカード」の見本です。  
切り取って、しりとりの導入時に活用してください。





かつどうれい 活動例 15	<b>&lt;すごろく&gt;</b> がっこうせいかつ あそ ぶ る ー る し たの あそ <b>学校生活：遊びのルールを知り楽しく遊ぶ。</b> よ か こ い も じ ていちゃく <b>読み書き：語彙や文字の定着。</b> さんすう すうじ あらわ かず がいねんはあく <b>算数：数字で表された数の概念把握。</b>	ひとり にん 1人～5人 ふんていど 15分程度
------------------	--	-----------------------------------

**<準備>** さいころ

**<活動例>**

**STEP1 (数字で表された数の概念を把握する活動)**

- ① 床の上に、チョークや色テープで10個程度の四角を輪になるように書きます。
- ② さいころを振り、出た数字の数だけ数えながら、子ども本人がコマとなって進んでいきます。
- ③ 一周してスタート地点まで戻ったら、得点カードをもらいます。
- ④ こうして、何度も繰り返して得点カードを沢山もらった人が勝ちとします。

**STEP2 (すごろくを応用してことばを言ったり、読んだりする活動)**

- ① ひらがなカードや語彙の絵カード、字カードなど、学習に利用したカード教材を用意します。
- ② すごろくの指示を書いたカードを用意します。はじめに「ふりだし」、おわりに「あがり」を置きます。その間に指示カードと、用意した絵カードを交互に置き、すごろく状にします。
- ③ さいころを振り、出た数字の数だけ進み、絵カードの上で止まったらそのことばを言います。指示カードで止まったらその指示に従います。



**<ポイント>**

- ・Step1 は数字で表された数を動作で確認することができるので、数の概念ができていない子どもや、落ち着きがなく座っていることが困難な子どもには適しています。
- ・Step2はすでに学習したものを復習的にとりあげて使うのに適しています。子どもの習得度に合わせて、指示やカードを替えることで、難易の調節も可能です。

かつどうれい 活動例 16	<「もちもの」シート> <small>がっこうせいかつ がっこう つか ぶんぼうぐ せいかつどうぐ</small> 学校生活：学校で使われる文房具や生活道具を知る	ひとり 1人～ <small>ぶんていど</small> 30分程度
------------------	---	---

<準備>

- ・もちものシートNO. 1
- ・もちものシートNO. 2 (ランドセルのふたの部分カラーを用意する)

<活動例>


- ① 「もちものシートNO. 1」で、学校に持って行ってよいもの、悪いものを確認します。特に指導したい「ハンカチ、ティッシュは忘れないこと」や、「お菓子、おもちゃは持ってきてはダメ」という確認します。
- ② 持ってきてはいけないものには×を書き、切り取り線をハサミで切ります。
- ③ 学校の持ち物は「もちものNO. 2」のランドセルの中に貼り、持って行ってはいけないものはランドセルの外に貼ります。
- ④ 出来上がったら、最後にランドセルのふたを貼って、出来上がりです。

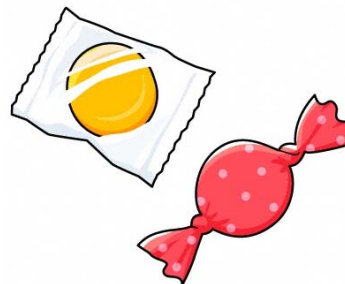
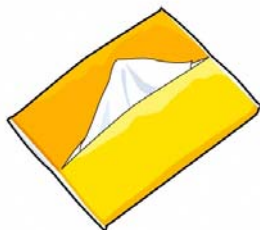
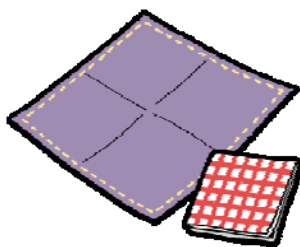
<ポイント>

- ・持ち物シートを使って、工作をたのしみながら、学校に持って行ってよいものと悪いものがわかります。
- ・体験入学を行うときは、ロッカーや机を見せ、持ち物を置くという説明をします。
- ・保護者に、持ち物全部に名前を書く必要があることと、保護者自身が子どもの名前を日本語で書けるようにすることを伝えます。



# もちものシート NO. 1

 がっこうに もっていくものに ○を つけましょう。  
 がっこうに もっていったは いけないものに ×を  
 つけましょう。





もちものシート NO. 2

なまえ



がっこうに もっていくものを かばんの なかに  
はりましょう。

